

【道徳・中1・「よりよいクラス活動を目指して」】

C よりよい学校生活、集団生活の充実

育成を目指す資質・能力

空き缶回収活動の問題点について話し合う活動を通して、集団の一員としての役割と責任の自覚を深め、協力して集団生活の向上に努めようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

ICT活用のポイント

- ・他者の考えを共有し、自らの考えを広げ深めるための活用。
- ・対話を補助するための活用。

【導入】

集団生活の難しさについて考え、問題意識をもつ。

【展開】

空き缶回収活動の問題点について話し合うことを通して、ねらいとする道徳的価値の理解を深める。

【終末】

集団生活について、今までの自分の考え方を振り返り、これからの生き方について考える。

事例の概要

- ・ 教材の登場人物の空き缶回収に対するそれぞれの考え方を確認し、「自分だったらどの考え方に共感するか」ということを考え、自分の考えをICT端末に入力する。
- ・ 全員の考えを集計し、ICT端末で全員の考えを閲覧できるようにする（3パターンに色分けして意見を分類する）。
- ・ 他者の考えと比較検討しながら、自分の考えを発表する（意図的な指名により全体で話し合う）。
- ・ よりよい集団生活を目指すことを踏まえ、教材にあるクラスの問題点を解決するためには、何が大切なのかを考え、ICT端末に入力し、それを基にして他者と対話をする。

【道徳・中1・「よりよいクラス活動を目指して」】

C よりよい学校生活、集団生活の充実

【ICT活用の場面①】

多様な考え方を比較検討する



- ① 空き缶回収の活動に対する登場人物の考え方を3つに分類し、どの考え方に自分は共感するかを考え、学習支援ソフトに入力する。
- ② 全員の考え方を画面で共有することができ、自分の考えと他者の考えを比較することができる。また、色分けをして分類することで、生徒の考えの分散を一目で把握することができる。
- ③ 多様な考え方を比較検討しながら、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができる。
- ④ 教師は、即時的にすべての生徒の考えを把握することができ、意図的な指名をタイミングよく行うことができる。

【ICT活用の場面②】

直接的な対話を補助する



- ① 教材にあるクラスの問題点を全体の対話を通して考える。
- ② よりよい集団生活を目指すことを踏まえ、その問題点を解決するためには、どのような考え方が大切なのかについて学習支援ソフトに手書きで入力する。
- ③ 入力した考えを基にして、グループで対話をする。ICT端末をグループの仲間に見えるようにして自分の考えを示しながら、他者との直接的な対話を行う。短い文章で入力して、自分の意見を他者に伝えるための補助的な活用の仕方を心がけた。